

可逆性アプローチによる高レベル放射性廃棄物(HLW)管理政策と世代間公平性に関する  
瑞浪超深地層研究所調査報告

### 1. 調査の背景と目的

東濃地科学センター瑞浪超深地層研究所が立地する土地は、瑞浪市の市有地であり、その土地賃貸借契約が2022年1月に終了を迎える。埋め戻し後の土地利用については、瑞浪市長も議会で、その成果を待ち電源立地地域対策交付金に頼らない財政運営をすとし、土地利用は今後検討をすとし未定である。本調査は、科研・基盤研究(B)「可逆性アプローチによる高レベル放射性廃棄物(HLW)管理政策と世代間公平性」に関する研究プロジェクトの一環として、埋め戻し前に瑞浪超深地層研究所の地下施設の視察を実施し、現状と今後の計画について調査を行った。

### 2. 調査の概要

- ・実施日： 2019年10月15日(火) 10:40~14:30
- ・訪問先： 東濃地科学センター瑞浪超深地層研究所施設
- ・対応者： 笹尾英嗣・日本原子力研究開発機構東濃地科学センター地層科学研究部 部長
- ・参加者

松本礼史(団長)	日本大学生物資源科学部・教授
CHOI Yunhee	早稲田大学アジア太平洋研究科・博士後期課程
山田美香	早稲田大学アジア太平洋研究科・博士後期課程
朱鈺	早稲田大学アジア太平洋研究科・博士後期課程

- ・行程

10/15(火)	行程
07:40-09:19	東京駅(のぞみ101号)→名古屋駅
09:31-10:26	名古屋駅→瑞浪駅
10:30-10:40	東濃地科学センター瑞浪超深地層研究所へ移動(タクシー)
10:45-12:00	<b>【座学】</b> ・概況説明 ・掘削方法の映像DVD
12:00-14:00	<b>【地上及び地下500m施設見学】</b> ・安全装備の着用 ・地上設備、研究坑道見学 ・更衣
14:00-14:30	質疑応答
14:30-14:40	瑞浪駅へ移動(タクシー)
14:47-15:35	瑞浪駅(JR中央本線快速・名古屋行き)→名古屋駅
15:44-17:23	名古屋駅(のぞみ232号)→東京駅

### 3. 調査の結果

今年度中に「第3中長期計画(2015~2021年)」にある3つの必須課題(①地下水の工学的対策、②岩盤中の物質移動現象、③坑道埋め戻し技術)の研究成果を提出し、土地賃貸借契約終了に

向け坑道の埋め戻しがされることとなっており、見学もいつまで可能か未定とのことである。また、埋め戻しは研究期間に含まれず、埋め戻し後に環境モニタリングは継続（2028年3月）していくが、研究期間は終わりを迎えようとしている。このような状況から、東濃地科学センター瑞浪超深地層研究所では企業からの出向者を中心に、人員の減少が進んでいるとのことであった。

瑞浪の研究施設の受け入れは、原子力発電の恩恵を受ける国民の役割分担としての認識から地層処分施設としないことを前提とし、研究が行われていた。日本における HLW 処分政策は、処分地選定は進まず、社会的議論も困難な現状だが、HLW を持ち込まない研究施設であっても、継続できないことに、HLW 管理政策の社会的受容性の難しさが示された。研究施設の立地により、瑞浪の地域で HLW 管理政策あるいは、地層処分が社会的受容性を得ることができたのか、今後の課題として考えたい。

### 【収集資料】

JAEA 東濃地科学センター（2019）『地層を科学する』。

### 【参考文献】

科研バックエンド問題研究会（2017）「高レベル放射性廃棄物（HLW）処理・処分施設の社会的受容性に関する土岐・瑞浪調査報告書」早稲田大学レジリエンス研究所。

瑞浪市市議会議事録「平成31年第1回定例第2号（2019年2月26日）」

<http://www.kensakusystem.jp/mizunami/cgi-bin3/Search2.exe#res>（アクセス：2019年9月27日）

西尾和久・大澤英昭（2016）「超深地層研究計画における地域社会との共生に向けた活動から学んだ教訓—手続き的公正さと分配的公正さの視点から—」『原子力バックエンド研究』Vol.23 No.1. pp.9-24.

